

全国保育問題研究協議会 東京集会 プレセミナー

もう一度、手と手をぎゅっとなぎあおう
一保育のこと、子どものこと、みんなで考え話し合おう

3 講座

10:00~12:00
各定員70名

講座
A

「集団のなかで自制心と自己肯定感がたち現われるとき： 複数の支援児がいるクラスの保育をつくる」

浜谷直人さん（首都大学東京）

就学が近づくと、子どもたちは、自制するとともに、誇り高い自己肯定感をもつように育てほしいと期待されます。余裕がないと、自制心も自己肯定感も、子ども個のなかで育つと考えます。しかし、自制する力は、仲間とともに遊びこむ中で育ち、時にはケンカしながらも挑戦して乗り越えていく中で自己肯定感を実感できるものです。支援が必要な子どもが複数いるクラスで、豊かに遊びこみながら子どもとクラスが育っていく保育について考えてみたいと思います。

講座
B

「新しい制度をつくるのは私たち！ 一あるべき保育の本質を追求し続けよう」

平松知子さん（愛知・けやきの木保育園）

4月から始まった子ども・子育て支援新制度。待機児童対策や少子化問題に労働政策と、たくさんの課題は見えるものの、「それって大人のためだけの新制度になってない？」と思いませんか？本当の制度は「子どもたちの発達を守るもの」であってほしい。私たちは、子どもと保育の力がすごいことを知っています。子どもの見方、保育のありようを確かめながら、現場の実践から見える、「こんな時代だから求められる保育の本質」を一緒に考え合いましょ。

講座
C

「子どもの今、この輝きを大切に作る保育—1・2歳児の 自己主張をどうとらえ、保育者間で共有していくのか」

芦澤清音さん（帝京大学）

自己主張が芽生え花開く1、2歳児。その表現にもぶつかり合いにも子ども個性が現れます。そんな子どもの姿を楽しむ保育者のまなざしが保育を豊かにしていきます。子どもの自己主張をどうとらえ、自我の育ちを支えていくか、保育の中の子どもの日々の小さなドラマを題材に、自己肯定感の土台を育む1、2歳児の保育を考えます。



申込方法は、裏面をご覧ください。
全国保育問題研究協議会HPでも詳細が確認できます。
QRコードまたは<http://zennhomon.jp>までアクセスして下さい。

4 分科会

13:15~16:00
各定員50名

分科会
1

「運動会の取り組みで変化してきた 5歳児の人間関係と個々の姿」

提案：清水怜さん(桜田保育園 5歳)
運営委員：河原紀子さん(共立女子大学)

話し合いで短縄、竹馬、鉄棒をやることに決まりました。しかし、運動会を意識して練習する子はできるようになっていきましたが、熱の入り方はバラバラで、クラスの中で差が出てきていました。そんな中で大人がどのように働きかけ、子ども同士が関わり合い、同じ目標に向かって練習に取り組んだかを提案したいと思っています。

分科会
2

「楽しい遊びの中でともに育つ、 気になる子を含めた仲間たち」

提案：野添ひとみさん・稲葉真理子さん
(NPO法人善行団地自治会立ちびっこ幼児教室 4・5歳)
運営委員：駒田直子さん(東京保問研)

友だち関係をつくるのに困難を持つ子が遊びの楽しさにひきこまれて、次第に仲間の一員として加わり、苦手なことを乗り越え認められていく姿と、その子を囲む子どもたちのともに成長する姿を、写真を交えてお話ししたいと思います。

分科会
3

「年中の生活から個と集団を考える」

提案：石神建太郎さん(神奈川・金井幼稚園 4歳)
運営委員：赤沼陽子さん(明星大学)

運動会後、子どもたち一人一人の成長を感じると共に、クラスの友だちとの関係性も深まり、集団遊びを楽しむ姿が見られるようになりました。2学期後半以降、集団を意識し始めた子どもたちが、友だちとどのように響き合い育ち合っていくのか。実践を通して考えていきたいと思っています。

分科会
4

「2歳児の遊びの中での友だちとの関わりを考える」

提案：遠藤幸子さん(おひさま保育園 2歳)
運営委員：鈴木牧夫さん(玉川大学)

テレビの戦隊もののヒーローに憧れを持ち始めた子同士が集い、共通のイメージを持って遊べるようになった一方で、全く別の遊びをしている友だちを悪者にしてトラブルが増えていきました。好きなものと認めながらもクラスや園ではどう考えていくか、事例、実践を報告したいと思います。

2016年2月28日(日)

10:00~16:00(受付9:30~)

首都大学東京
南大沢キャンパス

京王相模原線「南大沢駅」徒歩5分

一般2000円/保問研会員1500円/学生1000円

主催 第55回全国保育問題研究集会・東京集会実行委員会
東京保育問題研究会
協力 神奈川保育問題研究会